

30年1月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成30年 1月4日～ 30年1月15日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は37社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
仕入動向	国産材	△ 1.7	△ 5.0	5.4
	外材	5.7	△ 2.9	4.5
販売動向	国産材	△ 10.0	△ 1.7	0.0
	外材	△ 4.4	1.5	△ 3.1
在庫動向	国産材	0.0	△ 6.7	0.0
	外材	10.3	△ 4.5	△ 3.2

・国産材の仕入動向は1月、2月の減少から3月は増加に。外材は1月の増加から2月は減少、3月は再び増加に。
・国産材の販売動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。外材は1月の減少から2月は増加、3月は再び減少に。
・国産材の在庫動向は1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。外材は1月の増加から2月、3月は減少に。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目	30/1月	2月	3月
スギ正角(グリーン)	6.8	4.5	2.5
スギ正角(KD)	11.4	4.5	2.5
ヒノキ正角	13.0	6.5	4.8
ヒノキ土台角	19.6	6.5	2.4
米ツガ正角(現地挽)	26.2	9.5	4.8
米ツガ防腐土台角	22.7	11.4	6.8
米ツガ割物(現地挽)	28.6	16.7	7.1
米マツ平角	42.3	25.0	14.6
北洋アカマツタルキ(現地挽)	12.1	8.6	3.7
ホワイトウッド集成管柱	13.0	7.4	6.0
レッドウッド集成平角	30.0	12.0	6.3
型枠合板(輸入)	39.6	23.9	15.9
針葉樹構造用合板	18.8	13.0	13.6
針葉樹構造用合板(厚物)	20.8	15.2	15.9

・スギ正角グリーンは保合、KDはやや強含み。
・ヒノキ正角、土台角とも保合。
・米ツガは正角(現地挽)、土台角、割物(現地挽)ともやや強含み。
・米マツ平角は強含み。
・北洋アカマツタルキ(現地挽)保合。
・WW集成管柱、RW集成平角とも保合。
・型枠合板(輸入)は強含み。針葉樹構造用合板は薄物、厚物とも保合。